

# 「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

東京工業大学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構



## 大学評価・学位授与機構が行う大学評価

### 大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

#### 1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

#### 2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施( 試行 )期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

#### 3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

### 全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

#### 1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

#### 2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

#### 3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会でき取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

#### 4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

#### 5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

## 対象機関の現況

### 機関の名称及び所在地

東京工業大学 東京都目黒区

### 学部・研究科構成

理学部, 工学部, 生命理工学部

理工学研究科, 生命理工学研究科, 総合理工学研究科,  
情報理工学研究科, 社会理工学研究科

### 学部・研究科以外の組織

資源化学研究所, 精密工学研究所, 応用セラミックス  
研究所, 原子炉工学研究所, その他15学内共同教育研  
究施設及び工学部附属工業高等学校

### 学生総数(平成13年5月1日現在)

学生総数: 9,732 名

#### (内訳)

学部 5,132 名

大学院 修士課程 3,206 名 博士課程 1,394 名

\* 研究生(上記の学生総数には含まれない) 185 名

### 教員総数(平成13年5月1日現在)

教員総数 1,099 名

#### (内訳)

大学院(学部) 853 名

附置研究所 166 名

学内共同教育研究施設等 80 名

\* 寄附講座・寄附研究部門の客員教授等(8名), 附  
属工業高等学校教諭(54名)(上記の教員総数には  
含まれない)

### 本学の沿革及び現況の概要

本学の歴史は, 日本工業及び日本工業教育の先達を養  
成するため明治14年東京職工学校が設立されたことに  
始まる。その後, 東京工業学校, 東京高等工業学校を  
経て, 昭和4年に東京工業大学に昇格した。以後, 理学部  
と工学部の分離, 生命理工学部の設置をはじめ, 独立研  
究科(総合理工学研究科, 情報理工学研究科, 社会理工  
学研究科)の設置を経て, 平成12年度には, 大学院の  
重点化が完成し(理工学研究科, 生命理工学研究科),  
大学院を中心とする「研究大学」, 「理工系総合大学」と  
して新たな歩みを始めた。また, 平成13年3月には, 4  
大学連合(東京工業大学, 東京医科歯科大学, 東京外国  
語大学, 一橋大学)を結成し, 以下に述べる本学の特徴  
を教育・研究両面でさらに推し進めることとしている。

### 本学の使命及び特徴

教育・研究における本学の使命は,

「科学技術分野の学術研究の推進と高度の科学技術者の  
養成, 地球規模での文化及び産業の発達への貢献」であ  
る。

この使命を達成する上での本学の特徴は, 以下のとお  
りである。

- 1) 全教官が最先端の研究を遂行することを主な任務  
とし, 「研究を核とした教育」を行うこと。
- 2) 実業・生産現場を重視すること。
- 3) 新分野・境界領域への果敢な挑戦を行うこと。

## 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

### 1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

#### 【背景又は条件】

本学において、「教育サービス面における社会貢献」を論ずる際、その背景又は条件として挙げられる点は、以下のとおりである。

- 1) 「1. 対象機関の現況」に記したとおり、本学は、理工系のあらゆる分野における最先端の教育・研究を行う、また大学院を主体とした、我が国を代表する「理工系総合大学」である。
- 2) 首都圏に位置していることにより、科学技術の情報を収集しやすいという利点を生かし、設立当初より、時代の先端的科学技術を積極的に創造し、発信してきた歴史や経緯を有している。

#### 【社会貢献活動全体の位置付け】

本学の使命は、前述のとおり大学院を主体とした教育・研究により人類社会に貢献することである。このような教育・研究活動の一側面（一形態）として、地域社会や産業界との連携・交流の推進や、社会への知的啓蒙・啓蒙等の活動があり、「教育サービス面における社会貢献」も、この側面に位置付けられる。

#### 【教育サービス面における社会貢献の考え方】

最先端の研究の遂行とこれに基づく大学院を中心とした教育活動とを行うことが本学の第一義的な使命である。従って、教育面においては、正規課程に在籍する学生を、高度の科学技術者に養成することこそが何にもまさり重要な活動である。

しかし一方で、社会の高度化と複雑化に伴う職業能力向上を目指した教育のニーズや、国民のゆとりや価値の多様化に伴う幅広い年齢層における生涯学習ニーズの高まりがある。本学が国立大学であることから、タックスペイヤーたる国民の期待に応えるべき責務を有していることも、また大いに自覚すべき点である。従って、本学の第一義的使命と位置付けられる正規課程在籍学生に対する教育を行いながら、「教育サービス面における社会貢献」を実行する場合には、限りある資源と時間をいかに配分するかが大きな問題となる。

これまで本学では、「教育サービス面における社会貢献」について全学的な課題として正面から議論されたことはなかった。しかしながら、特段の意識をせずに「教育サービス面における社会貢献」は行われてきた。平成11年度に行われた全学的な自己点検・自己評価活動と

その外部評価において、各部局にわたる自己評価のガイドラインのなかに「イベント」という自己評価項目があり、ここでは、「機構」の言う「教育サービス面における社会貢献」とは若干定義の違いはあるものの、社会に開かれた大学を目指した各部局の諸活動が示され、自己評価が行われている。この中では、様々な活動が紹介されている。通信衛星を使った大学院レベルの教育（高度職業人養成）や公開講座（生涯学習機会の提供）など「教育サービス面における社会貢献」そのものといった活動の他にも、国際交流を主眼に行われるもの、産業の立ち上げを意図し新技術を紹介するもの、より質の高い受験生の開拓をねらったものなど、必ずしも「教育サービス」の提供を主な目的としている活動には分類されない種類のものもある。しかし、活動の形態の差はあれ、大学という教育機関が行う活動の内容として、「教育サービス」の概念がその底流にない活動はひとつとして存在するはずもないことも事実である。

これらのことから、本学における「教育サービス面における社会貢献」のとらえ方は、次のとおりまとめることができる。

- 1) 「教育サービス面における社会貢献」は、本学の第一義的な使命が正規課程に在籍する学生に対する教育にあることを踏まえた上で、これまでも可能な限り実行されてきた正規課程在籍学生以外の者に対する諸活動であり、今後もそのような努力を続けるべき諸活動、ととらえる。
- 2) あらゆる活動は、教育・研究活動の一形態、一側面であり、また各活動それ自体も単一ではなく多様な目的を有していることから、「教育サービス面における社会貢献」もまた、これらの諸活動のもつ多様な目的のうちの一部であると考えられる。

## 2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

### 【目的】

前述のとおり、「教育サービス面における社会貢献」は、大学の多様な活動の一部である。その上で、その活動にあえていくつかの目的を設定するならば、おおよそ次のように分類することができる。

#### 1) 国際的視点を踏まえた社会貢献

世界的規模で、凄まじいスピードで進展する科学技術を鑑みると、単に我が国だけの科学技術を考える視点では、真の豊かな社会を創ることはできない。そのため、地球的規模での科学技術の水準の向上を図るとともに、国際理解・国際協調を強力に推進する教育活動を行うことを目的とする「教育サービス面における社会貢献」である。

このような認識の下、開発途上国から研修生を本学に受け入れて行う教育サービス、留学生を地域の小・中学校へ派遣することにより相互理解と教育的効果を図ろうとするもの、諸外国へ直接教官を派遣して現地で行われる教育サービスの提供などの諸活動がある。

#### 2) 社会人教育（リフレッシュ教育）と生涯学習機会の提供による社会貢献

科学技術立国を目指す我が国にとって、社会人を対象とした啓蒙教育と、進展が著しい科学技術に十分対応できる科学技術者のリフレッシュ教育は不可欠である。本学が首都圏に立地する理工系総合大学であるという特徴を生かし、これらを推進するための教育活動を行うことを目的とする「教育サービス面における社会貢献」である。

#### 3) 次代の科学技術を担う低年齢層の教育による社会貢献

我が国においては、小・中・高校生など低年齢層の理工系離れが年々その加速度を増している。これら低年齢層に対し直接働きかけ、科学技術に対する興味や関心を引き起こすことにより、理工系離れをくい止めるための教育活動を行うことを目的とする「教育サービス面における社会貢献」である。

### 【目標】

繰り返し述べるように、各活動の目的・内容は多様であり、目的を達成するための目標やそのプロセスも様々である。従って、ここでは上記の目的の分類ごとに、その代表的な活動例とその活動の掲げる目標について記すことにする。

#### 1) 国際的視点を踏まえた社会貢献

ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座

(目標) 開発途上国からの研修生を恒常的に一定数受け入れること、及び帰国後のアフターケアを十分に行うことにある。

(活動内容) ユネスコを通じて文部科学省が積極的に推進しているアジア・太平洋地域の教育開発をはじめとする開発途上国への科学協力事業の1つとして、ユネスコ国際大学院コースが開設され、本学に化学・化学工学コースが設けられている。昭和40年以来毎年約14名の研修生を受け入れ、2000年現在で、58か国2地域より合計474名の研修生を送り出している。

中国赴日留学生予備教育への教官派遣協力

(目標) 中国赴日留学生予備教育への教官派遣事業に、本学が主導的役割を果たすことにある。

(活動内容) 中国政府派遣留学生として日本の大学院へ進学またはポスドクとして研究に従事する者に対し、日本の大学院での学習・研究のスムーズな遂行・進展を図るために基礎日本語及び専門日本語に関する知識・能力を修得させることを目的として教官を派遣するプログラムが中国赴日留学生予備教育であり、昭和54年から文部省と中国国家教育委員会との合意に基づき実施している国家的事業である。本学からは、「基礎日本語」教育を担当する東京外国語大学と密接に協力して、「専門日本語」教育のため教官を2か月間中国に派遣している。

#### 2) 社会人教育（リフレッシュ教育）と生涯学習機会の提供による社会貢献

科学教育研究室研究生制度

(目標) 小・中・高校の理科教育の担当教員に基礎的研究を行う機会を与えることにある。

(活動内容) 主に都道府県教育委員会から推薦された小中高校の理科教育（算数・数学及び職業に関する教科教育を含む。）担当教員が、本学教官の指導の下で本学研究室において理科教育・数学教育・情報教育などの研究を行う。期間は、3か月以上1年以内である。公開講座・講演会・シンポジウムなど

(目標) 最先端の科学技術を、分かりやすくかみ砕いて社会に伝達することにある。

(活動内容) 全学規模、各学部・研究科・研究所・センター単位で行われる他、講座・専攻・研究室単位で各種の講座・講演・シンポジウムなどの活動が行われている。

この中には、高校生、一般社会人や専門家など、活動ごとに対象者を絞り込んで科学技術の啓蒙と情報発信を行っているものもある。

#### 3) 次代の科学技術を担う低年齢層の教育による社会貢献（ここでは、活動の内容は省略し、活動ごとの目標を列記する。）

(目標)

## 公開講座「生命理工学への招待」

高校教材では取り上げない最先端のバイオテクノロジーに直接手を触れさせることにある。

## 一日体験化学教室

高校教材では取り上げない大学の専門課程で行うテーマ、あるいは研究室で現在実際に研究されている最先端の化学に関するテーマを、生活と密接に関わる形で楽しく理解させることにある。

## 地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」

自分たちの住んでいる「地球」について理解し、実習を行うことにより、児童が楽しく、体験的に地球科学を学ぶことにある。

## 原子力オープンスクール

日本原子力学会と共催し、高校生を主な対象として、原子力分野にとって特に重要な放射線に関する知識を得させることにある。

## 高校生のためのスーパーコンピュータコンテスト

高校の理工系カリキュラムの中では取り上げられることがなく、直感的に理解しやすく、その一方で深い背景と広い応用力を伴った種類のテーマを課題として取り上げ、それをスーパーコンピュータを使って解かせることで新たな刺激を高校生に与えることにある。

### 3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

本学では、「教育サービス面における社会貢献」を目的ごとに3つのカテゴリーに整理するとともに、各部署の活動内容から、「教育サービス面における社会貢献」に該当すると思われる諸活動をピックアップし、その活動主体に対しあらためて自己評価報告書の作成を依頼した。ここでは、これらの活動の名称を単に列挙することとする。

## 1) 国際的視点を踏まえた社会貢献

ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座 中国赴日留学生予備教育への教官派遣協力 地域小・中学校への留学生派遣 MIFAの日本語教師養成講座への支援(目黒区国際交流協会への協力事業)

## 2) 社会人教育(リフレッシュ教育)と生涯学習機会の提供による社会貢献

科目等履修生制度 研究生制度 科学教育研究室研究生制度 新産業技術等指導者養成講習 東工大現代講座 フロンティア創造共同研究センターにおける講演会等のイベント 衛星通信公開講座(リフレッシュ教育) エル・ネット「オープンカレッジ」とエル・ネットによる教員研修の開催 図書館の公開 大岡山フォーラム 百年記念館企画展・講演会 精密工学研

究所公開 精密工学研究所シンポジウム 公開講座(原子力) 核友会セミナー 原子炉工学研究所公開 公開シンポジウム(理財工学研究センター) 総合研究館講演会

## 3) 次代の科学技術を担う低年齢層の教育による社会貢献

高校生を対象としたスーパーコンピュータコンテスト 一日体験化学教室 中・高生のための公開講座(物理) 地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」 体験入学(附属高校) 原子力オープンスクール ふれあいサイエンスプログラム 公開講座「生命理工学への招待」

ここに挙げた諸活動は、単にピックアップされた活動にすぎない点に特に留意すべきである。これらは、報告書という形で記録に留められた活動であり、これ以外にも、例えば大学祭における「研究所公開」・「研究室公開」、ホームページに公開されている多くの「研究室紹介」、ほぼ毎日何らかの形で学内で開催され、社会に対し公開されている各種の講演会やシンポジウムは、「全学的(全機関的)組織で行われている活動及び全学的(全機関的)な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動」であって、「正規の課程に在籍する者以外を対象とする」(「機構」の定める評価対象活動)には直接合致しない側面を有するが故に、ここに挙げないだけである。

また、各種の研究者交流事業、日本学術振興会や国際協力事業団の開発途上国支援事業に本学教官が参加・協力するという形での開発途上国の人々に対するサービスの提供、及び学術交流協定に基づく相手校教官の受入等は、多くの教育的配慮やサービスの提供を伴う活動である。さらに協定校から受け入れる短期留学生に対する教育サービスの提供や論文博士制度による社会人教育への貢献などの諸活動は、見方によっては「教育サービス面における社会貢献」の内容を含むものであるが、これらに対する評価は別の機会にゆずることとする。

いずれにせよ、これら諸活動は、本学における教育・研究活動の一形態・一側面であり、各活動の持つ多様な目的のうちの一部に注目した分類を行ったにすぎない。

## 評価結果

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

東京工業大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座、中国赴日留学生予備教育への教官派遣協力、地域小・中学校への留学生派遣、MIFAの日本語教師養成講座への支援、科目等履修生・研究生・科学教育研究室研究生の受入れ、新産業技術等指導者養成講習、東工大現代講座、衛星通信公開講座、エル・ネット「オープンカレッジ」とエル・ネットによる教員研修、図書館の公開、高校生を対象としたスーパーコンピュータコンテスト、一日体験化学教室、中・高生のための公開講座（物理）、地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座は、ユネスコを通じてアジア太平洋地域の教育開発をはじめとする科学協力事業であり、開発途上の大学等から若手教員を1年間受け入れることにより、当該国の教育・研究機関の発展に寄与する優れた取組である。

また、中国赴日留学生予備教育への教官派遣協力は、中国政府派遣留学生として、日本の大学院での進学もしくは研究を予定している者に対して、基礎及び専門の日本語に関する知識・能力を習得させることを目的として、毎年、各専門領域の教官を約10人、中国の長春市に2ヶ月派遣しているプログラムであり、1対1のきめ細やかな少数ゼミ形式の教育、専門領域に関する話題を分かりやすく解説する特別講義など、随所にきめ細かな配慮がなされている点で優れている。

地域小・中学校からの要請による、留学生の国際交流事業への講師としての派遣は、小・中学生の頃から国際的感覚を養うことへの一助となり、多くの留学生が学んでいる大学の特色を生かした特色ある取組である。

また、大田区教育委員会を通じた小・中学校への案内書と派遣申込書の配布や、ホームページにより留学生の参加登録を行っているなど、募集方法や実施方法に工夫し、積極的に取組が行われている点は優れている。

科学教育研究室研究生の受入れは、都道府県の教育委員会から推薦された小・中・高校の理科・数学等の担当教員に対して、研究室において理科教育・数学教育・情報教育等の指導を行い、その指導力の強化を図るための優れた取組である。

平成8年度に設置された衛星通信遠隔教育システムを活用した衛星通信公開講座では、希望者への衛星受信用チューナーの貸し出し、インターネットでの受講機会の提供等、受講機会を増やす努力がなされている点で優れている。

文部省（現文部科学省）が平成11年度に設置した教育情報通信ネットワーク（エル・ネット）を活用し、公民館などの生涯学習機関を対象としたエル・ネット「オープンカレッジ」の実施と、全国都道府県の教育委員会や教員研修所を対象とする教員研修の開催への協力は、社会人教育と生涯学習機会を提供する優れた取組である。

また、エル・ネット「オープンカレッジ」については、録画された講義内容を利用者の希望に応じて貸し出しており、一般市民に広く開放されるよう配慮している点も優れている。

高校生のためのスーパーコンピュータコンテストは、高校のカリキュラムでは取り上げられないことのない種類のテーマを課題として取り上げ、それをスーパーコンピュータを用いて解かせることにより、参加者の理工系への興味をさらに高めるために大きく貢献する特色ある取組である。

また、地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」、原子力オープンスクール、高校生のための公開講座、公開講座「生命理工学への招待」、一日体験化学教室などの次代を担う年齢層への教育についても、学校教材では取り上げない最先端の科学技術を実感できるよう、内容に工夫を凝らし、低年齢層の理工系離れをくい止めることに寄与する優れた取組である。

次代の科学技術を担う低年齢層への各活動は、「理科離れ」の風潮のある中で、それをくい止めることに貢献する取組である。また、理科系教員の力量の向上も不可欠であり、これを図るための活動も行われている。

これら二つを同時に行っていることは、大学の特色を生かした優れた取組である。

各活動は、委員会や部局・学科・専攻等において検討・運営が行われているが、全学的な連携・検討等が十分



行われていないものもあり，この点について改善の余地もある。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

---

## 2．目的及び目標の達成状況

---

ここでは、「1．目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し，特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し，目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

地域小・中学校への留学生派遣は，派遣された留学生の報告や派遣した学校からの謝意から，満足度が高く成果を得ている。

科学教育研究室研究生の受入れは，受入分野が教育学と情報教育の分野に偏っており，また，受け入れている都道府県は，宮崎県，熊本県，富山県，静岡県など広い範囲で継続的に受け入れているものの，一部の都道府県に限定されており，受入分野や受入数の拡大に改善の余地もある。

附属図書館の学外入館者数は，平成8年度から平成12年度までに本館及びすずかけ台分館を合わせて，10,657人，8,519人，10,658人，12,579人，12,471人と若干のばらつきがあるものの成果を得ている。

高校生を対象としたスーパーコンピュータコンテスト，一日体験化学教室，公開講座「生命理工学への招待」は，毎回定員を超える多くの参加希望者があることや，アンケート結果から，関心や満足度が高く成果を得ている。

しかし，定員を超えた場合の抽選により参加できない者への対応に改善の余地もある。

地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」は，50人の定員に対して，50人から62人の小学校高学年の児童を受け入れており，また，アンケート結果からは，「よく理解できた」，「楽しかった」など多くの参加者が満足した回答をしていることから，定員の充足率，満足度はともに高く成果を得ている。

原子力オープンスクールの中・高校生の参加者数は，平成9年度から平成12年度までに62人，92人，49人，74人と参加者数にばらつきがあるものの，アンケート結果からは，多くの参加者が満足した回答をしていることから満足度は高く成果を得ている。

#### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが，改善の余地もある。

---

### 3. 改善のためのシステム

---

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

全学的な活動ごとに委員会等が設置され、活動の状況や問題点を把握し、改善に向けての取組が行われている点は優れている。

一方、部局・学科・専攻等での活動については、個々に改善に向けての取組が行われているが、さらに全学的な体制として整備するよう改善の余地もある。

社会人教育（リフレッシュ教育）と生涯学習機会の提供による社会貢献や、次代の科学技術を担う低年齢層の教育による社会貢献の各活動においては、アンケート調査により参加者からの意見を取り入れている点は優れているが、さらに参加者以外の意見を取り入れる点に改善の余地もある。

平成 11 年度に大学の教育・研究等の諸活動と併せて教育サービス面における社会貢献の自己点検・自己評価・外部評価を行い、報告書を刊行している点は優れている。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。

## 評価結果の概要

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

#### 特に優れた点及び改善点等

ユネスコ化学・化学工学国際大学院研修講座は、開発途上国の教育・研究機関の発展に寄与する優れた取組であり、中国赴日留学生予備教育への教官派遣協力は、随所にきめ細かな配慮がなされている点も優れている。

地域小・中学校への留学生の派遣は、多くの留学生が学んでいる大学の特色を生かした特色ある取組であり、募集方法や実施方法に工夫し、積極的に取組が行われている点も優れている。

科学教育研究室研究生の受入れは、現職教員の指導力の強化を図るための優れた取組である。

衛星通信公開講座では、受講機会を増やす努力がなされている点で優れている。

エル・ネット「オープンカレッジ」、教員研修の開催への協力は、社会人教育と生涯学習機会を提供する優れた取組である。また、エル・ネット「オープンカレッジ」は、一般市民に広く開放されるよう配慮している点も優れている。

高校生のためのスーパーコンピュータコンテスト、地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」、高校生のための公開講座などは、低年齢層の理工系離れをくい止めることに寄与する優れた取組である。

「理科離れ」をくい止めることに貢献する各活動と、理科系教員の力量の向上のための活動を同時に行っていることは、大学の特色を生かした優れた取組である。

各活動は、全学的な連携・検討等が十分行われていないものもある点に改善の余地もある。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

### 2. 目的及び目標の達成状況

#### 特に優れた点及び改善点等

地域小・中学校への留学生派遣は、満足度が高く成果を得ている。

科学教育研究室研究生の受入れは、受入分野や受入数の拡大に改善の余地もある。

附属図書館の学外入館者数は、若干のばらつきがあるものの成果を得ている。

高校生を対象としたスーパーコンピュータコンテスト、一日体験化学教室、公開講座「生命理工学への招待」は、関心や満足度が高く成果を得ているが、定員を超えた場合の抽選により参加できない者への対応に改善の余地もある。

地球史資料館夏休み特別企画「地球と遊ぼう」は、定員の充足率、満足度ともに高く成果を得ている。

原子力オープンスクールは、参加者数にばらつきがあるものの、アンケート結果から満足度は高く成果を得ている。

#### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

### 3. 改善のためのシステム

#### 特に優れた点及び改善点等

各活動ごとに改善に向けての取組が行われている点は優れているが、部局等での活動については、さらに全学的な体制として整備するよう改善の余地もある。

社会人教育と生涯学習機会の提供による社会貢献や、次代の科学技術を担う低年齢層の教育による社会貢献の各活動は、参加者からの意見を取り入れている点は優れているが、さらに参加者以外の意見を取り入れる点に改善の余地もある。

大学の教育・研究等の諸活動と併せて教育サービス面における社会貢献の自己点検・自己評価・外部評価を行い、報告書を刊行している点は優れている。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。